神保町との出会い

向井敏

古書店には言いつくせないほどお世話になってきたというのに、神保町とのつきあいはまことに浅い。浅いというより、苦手というに近い。必要に迫られて、まれに出向くことがあっても、用が足りると早々に退散する。昔、まだずっと若かったころ、ある詩人雑誌で谷沢永一というおそるべき古書通に出くわし、この世界は私などにはとうてい歯の立つところではないと観念して、以来、敬遠をこととしてきたせいである。

東京人編集部
名越加余枝様

紀伊國屋製 K1